

得ることかできると思います。最近、自宅
熱中症で亡くなる高齢者が増えているとい
ニミ、スも耳にします。その原因は一人暮ら
しで、自身でエアコンをつけたり水分補給を
したりしないというところにあるそうです。こ
の問題も施設の人との交流を通すことで防
ごうか。
ことができるのでは無いでしょうか。
しかし、サービスや料金の種類があり可
こ、物件探しの際に何から始めればよいかわ
からないし、この物件が自分に合っている
か見極めるのが難しいし、という声が多いや
うです。確かに、祖母が曾祖母を介護施設に
居させる際、施設の決定に悩んでいました。
選択肢が多いほど自分に合った物件を見つけ
やすいのかと思います。ていまして、が、
探しとすると難しいものなのだと思います。
た。それを解決するため、施設側が入居希
望者に物件をわかりやすく提案することが大
事だと思えます。誰でもきくと、相手の説明
が不十分でずれ違いが起きたことがありま

よね。それが物件決定の際に起きこはなりま
せん。施設側がより詳しくていいいに、入居
者の身になつて物件を紹介すれば、今のよう
な悩みの声は減少すると思ひます。生活の核
となつる家を決定するのに、施設側の協力は重
要なものだと思ひます。

私はまだ、老後の生活がどうなるか想像も
できてません。しかし、曾祖母の様子を見て、
「自分も介護される身になるのだらうかし」と
考えたことがありました。介護する家族の方
にとつては重労働だと思ひます。私はあまり
家族には迷惑をかけたくありません。そのた
めに、サ高住の件数を増やして、サービスも充
実させてほしいと思ひます。高齢化が急速に
進んでいふ現在、高齢者への対応を増幅し、
高齢者にやさしい社会がつくられていけばよ
いのです。